

2013年(平成25年)8月29日

ファンケル ニュースレター Vol. 27

「シニアの元気が日本の元気!!」 第13回 ファンケル クラシックを終えて 『やっぱりシニアは熱かった!!』



さる8月16日(金)～18日(日)の3日間、静岡県裾野市にある裾野カンツリー倶楽部にてPGA シニアツアー「第13回 ファンケル クラシック」が開催されました。

大会は、最終日に首位と9打差の2オーバー35位からスタートした羽川豊プロが、大会新記録となる10アンダーで猛チャージをみせ、通算8アンダーでフィニッシュ。そのまま優勝を飾ると思われましたが、一方で、12番ホールでホールインワンも達成した、全米プロシニア選手権覇者でもある井戸木鴻樹プロが猛追。最終18番ホールのバンカーからのアプローチ

では、熟練した技術でピンそば1.5メートルに寄せ、難なくバーディーを獲得。土壇場で羽川プロとのプレーオフに持ち込み会場を大きくわかせます。そして、井戸木プロとのプレーオフを制した羽川プロが大逆転での優勝を決め、賞金1,500万円を獲得しました。結果、羽川プロの獲得賞金は1,648万2,284円となり、賞金ランキング*1位の室田淳プロに約440万円差の2位に浮上しています。また、60歳以上で争う「グランドシニア賞」(賞金300万円)は全体で17位に入った福沢孝秋プロが獲得しました。 ※ファンケル クラシック終了時点

ファンケル クラシックは、「シニアの元気が日本の元気!!」をスローガンに掲げ、シニアプロの巧みな技を駆使した熱戦はもちろんのこと、大会運営にも多くのシニア世代が携わっています。今回は、選手、運営ボランティア、ギャラリー、当社従業員それぞれが感じた「シニアの元気」と、大会を通して得た「想い」をお伝えいたします。

PGA シニアツアー賞金ランキング(ファンケル クラシック終了時点)

順位	氏名	獲得賞金額(円)
1	室田 淳	20,865,000
2	羽川 豊	16,482,284
3	中嶋 常幸	15,625,000
4	東 聡	11,070,192
5	井戸木鴻樹	10,702,333
6	G・マイヤー	10,078,999
7	奥田 靖己	8,872,100
8	B・ルアンキット	7,434,250
9	崎山 武志	6,352,333
10	高橋 勝成	5,974,475

順位	氏名	獲得賞金額(円)
11	真板 潔	5,638,836
12	高見 和宏	5,154,442
13	倉本 昌弘	4,724,750
14	尾崎 直道	4,702,694
15	清水 洋一	4,189,500
16	渡辺 司	4,092,017
17	F・ミノザ	4,072,444
18	加瀬 秀樹	3,932,819
19	白浜 育男	3,695,850
20	湯原 信光	3,509,933

常に前向きで。諦めず最後まで続けることが一番！



第13回 ファンケル クラシック
優勝
羽川 豊プロ(55歳)

前日までバンカーショットが何回やっても全然グリーンに乗らず、調子がよくありませんでした。順位は何位でも悔いはなかったですが、最後まで諦めたくはありませんでした。常に前向きに最後まで我慢強くプレーし続けた結果、最終日に自分でも思ってもみないようなスコアが出ました。本当に自分じゃないみたいです。「諦めず最後まで続けることが一番」ということを証明できたことが本当に嬉しいです。暑い中、多くのギャラリーが応援してくれたおかげで、常に最後まで攻めのゴルフで前向きにプレーすることができ、それが土壇場のバーディーラッシュにつながったのだと思います。

本大会会長であるファンケル池森会長もおっしゃっていた通り、自分もシニアゴルフを宣伝するための大きな話題を提供したいと思っていました。井戸木選手の全米プロシニア選手権日本人初優勝をはじめ、今年は日本のシニアゴルフ界が非常に盛り上がっています。あと何年できるかわからないですが、自分もシニアの大会が一つでも増えるように、後輩のために道をつくってあげられたらいいと思います。そしてこのファンケル クラシックをきっかけに、もっとシニアツアーを盛り上げていきたいと思っています。

多くのシニアに負けずに。

シニアツアー後半戦も元気に頑張ります！

60歳にもなると出場自体も大変ですからね。こうしてファンケル クラシックのような大きい大会に出られることがとても楽しみです。そのような中、グランドシニア賞が獲れて本当に嬉しいです。多くの60歳以上の選手がいる中で、スコアがタイだとグランドシニア賞を獲れないことはわかっていたので、後半はボギーをしないようにパッティングは常にドキドキしていました。

疲れが足にきていますが、3日間頑張った結果が出て嬉しいです。この調子を維持し、後半戦全試合に出場して、多くの元気なシニアに負けずに、そしてまだまだシニアが活躍している姿をお見せできるように頑張ります。



第13回 ファンケル クラシック
グランドシニア賞
福沢 孝秋プロ(60歳)

【PGAシニアツアー 後半戦(第7~12戦) 競技日程】

	開催日程	競技名称	賞金総額(円)	優勝者
第6戦	8月16日～ 8月18日	ファンケル クラシック	63,000,000	羽川 豊
第7戦	8月30日～ 8月31日	ISPS HANDA CUP 秋晴れのシニアマスターズ	20,000,000	
第8戦	9月12日～ 9月14日	コマツオープン 2013	60,000,000	
第9戦	10月10日～ 10月13日	第52回日本プロゴルフシニア選手権大会 住友商事・サミットカップ	50,000,000	
第10戦	10月31日～ 11月3日	第23回日本シニアオープンゴルフ選手権競技	80,000,000	
第11戦	11月7日～ 11月9日	富士フィルムシニアチャンピオンシップ	70,000,000	
第12戦	11月22日～ 11月24日	いわさき白露シニアゴルフトーナメント	60,000,000	



大会ボランティア
柳川 進さん(53歳)

シニアプロの活躍に感化され、体力づくりをはじめました。

私は、2008年からボランティアとして毎年参加し、今大会で6回目となります。元々レギュラーツアーのボランティアをやっていて、妻がファンケルの化粧品愛用者だということもきっかけとなり、ファンケル クラシックのボランティアに参加しようと思い立ちました。

年を重ねていくごとに同じボランティアの方々にはもちろん、ギャラリーの方たちにも顔を覚えていただき、「また今年も会いましたね」と声をかけられるようになりました。ギャラリーだけではなく、選手からも気さくに声をかけていただきました。彼らは本当にギャラリーやボランティアの私たちを大切にしてくださっていますし、レギュラーのプロとはまた違った、独特な「親近感」があります。

このファンケル クラシックでシニアプロの活躍に感化されてからは、自分も体力づくりに励むようになりました。毎日会社の行き帰りは、オフィスまで30分かけて歩くようにしたり、ゴルフをするときは、あえてカートを使わずにまわるようにしています。私に元気をくれるファンケル クラシック。来年もシニアプロの方々の熱い戦いが見られることを楽しみにしています。

<大会ボランティアの方々からのコメント>

- ◆自分が22歳の頃にゴルフを始めたときにレギュラーで活躍していたプロが、今もなお、こうしてシニアとして頑張っておられます。そんな姿に感化され、私も地元のボランティアとして、この大会を盛り上げていきたいと思いました。
鈴木 恒男さん(静岡県 三島市/71歳)
- ◆負ければ収入がゼロという厳しい環境の中で、自分と同じ年代のプロが一生懸命プレーしている姿を見ると、本当に励みになります。大会が終わった後に家でボーッとくつろいでいるときに、ふとその姿を頭の中で思い出すことがあり、そこから「こんなんじゃダメだ！」と奮起して、外に出てウォーキングを始めるようになりました。
吉川 慧さん(静岡県 駿東郡/70歳)

自分もゴルフを頑張っていきたい。

私は、2008年から毎年このファンケル クラシックを観戦しに来ています。裾野カンツリー倶楽部は、本当に飽きないコースで、夏場は暑いですが山の風が心地良いですし、冬場でも暖かいです。また、景観も楽しめ、どのホールからも富士山が見られる、好きなゴルフ場のひとつです。

元々、自分自身もゴルフをしていましたが、昨年心筋梗塞を患い、年間20回以上まわっていたラウンドも、今では3回に激減してしまいました。シニアプロの方々の活躍を見ていると、自分も「頑張らなくちゃ！」と思います。シニアプロは、ギャラリーの私たちといつも近い距離にいてくれ、ファンあつてのトーナメントという想いがすごく伝わってきます。

シニアプロのプレーを見ていると、「ゴルフって“力”じゃないんだな」と思い知らされます。やはり“リズム”でスイングすることが大切なのでしょう。本大会で注目しているのはジェット尾崎選手。彼の今後の活躍に期待しながら、私自身、これからもゴルフを頑張っていきたいです。



ギャラリー
高橋 守さん(62歳)

<ギャラリーの方々からのコメント>

- ◆シニアツアーにはよく足を運んでいます。最近のゴルフ界は、若い選手の活躍が目立ちますが、そんな中頑張っているシニアプロの姿は本当に励みになります。毎年大勢のギャラリーと一体になった盛り上がり感に感化されています。
大庭 計さん(静岡県 裾野市/89歳)
- ◆本当は孫と一緒に来たかったのですが、今年はあえて一人で来ました。見たい選手のプレーをひたすら追いかけるためです。やはりシニアプロのプレーは一つひとつの技術が非常に参考になります。それらをずっと見ていると、自分も試そうと思って練習に行きたくなってしまいます。
仲田 将文さん(静岡県 三島市/69歳)

ファンケル クラシックは、本当に多くの方々の支えによって成り立っているのだと感じました。

大会運営サポート
 (株)ファンケル 新入社員
 浦島 芽衣(23歳)

私はこの大会の3日間、ファンケル クラシックの運営サポートに笑顔で取り組み、感謝の気持ちを言葉にすることを心がけました。実際にご来場いただいたギャラリーの方に笑顔になっていただけた時はとても嬉しかったです。

ギャラリーの皆様やボランティアの方からは、毎年楽しみに参加しているというお声や、気遣いのお言葉、感謝のお言葉を多くいただき、たくさんのシニアの方ともふれ合うことができました。また、選手の皆様も非常に元気で、真剣かつ楽しみながらファンケル クラシックに参加していただいているように感じました。

現在、私はお客様の声を直接聴くことができる、ファンケルの直営店舗で働いており、常にお客様視点を意識して、「お客様に喜んでいただくためには何ができるか」を考えております。今大会の経験を活かし、普段の仕事においても「さすがファンケルの社員だ」と思っていただけのために、しっかりとお客様に伝わる感謝の伝え方を意識していきたいと思えます。

“諦めずに頑張ること”を教えてくださいました。

まずは、天候に恵まれ、事故もなく終えられたことが本当に良かった、というのが率直な感想です。シニアハーフのコースレコードを羽川プロが記録し、話題の井戸木プロがホールインワンを達成と、非常に盛り上がった大会となりました。今大会も23,008人という多くのギャラリーにご来場いただきました。第1回大会である2001年のギャラリー数は2,219人。最初はみんな手作りで、常に「もっと何かできるはず」という当社の経営理念のもと、少しでも選手やギャラリーの方々に喜んでいただけるようにと、当社の従業員が中心となり、毎年階段を一つずつ上がるようにして少しずつ工夫をしてきました。その気持ちや取り組みが選手やギャラリー、運営ボランティアの方たちにも伝わり、一体となった結果、レギュラーツアーにも引けを取らないギャラリー数を誇るゴルフ大会にまで成長できたのではないかと思います。

優勝された羽川プロは、コメントの中で常に「諦めないこと」ということをおっしゃっています。彼はここまでのプロ人生の中で様々な困難があり、それを乗り越えてきました。そんなシニア選手のプレーや発言から、私も「諦めずに頑張ること」を改めて感じ、これからは活かしていきたいと思えます。



大会事務局長
 (株)ファンケル 取締役 常務執行役員
 村上 晴紀(60歳)



こうして、選手・運営ボランティア・ギャラリー・当社従業員といったたくさんの人たちの「想い」によって支えられた大会が、3日間に渡る熱戦の末、無事幕を下ろしました。毎年賞金王の行方を大きく左右するビッグトーナメント「ファンケル クラシック」。その余韻に浸る間もなく、シニアツアーもいよいよ後半戦へと突入します。次はどんな熱い戦いが繰り広げられるのか… 今後のシニアプロの活躍に乞うご期待！